

2025 年度 スポーツ科学部 FD 活動報告書

2025 年度のスポート科学部の FD 活動では全学の FD 方針に基づき、以下の取り組みを中心に実施した。

1. 大学 4 年間を通じた基幹科目の充実

(1) 活動内容と成果

スポーツ科学部では、少人数クラス制の必修授業である「スポーツキャリア演習 I～IV」、「スポーツ専門演習 I～IV」を基幹科目として 1～4 年の全学年に配置し、系統的な学び（スポーツ科学への導入と専門的内容、ジェネリックスキルの修得など）を促すとともに、個別面談を通して学生の学修を継続的にフォローし、躓く学生を一人でも減らすことに取り組んでいる。これらの科目については、毎年、授業担当教員のみならず、各学部委員会とも連携しながら充実を図ってきた。

- ・ 将来構想検討委員会、教務委員会：基幹科目を含む学部全体のカリキュラムの内容を検討した。
- ・ スポーツキャリア演習 I～IV：計画された授業内容を、主担当を含む授業担当教員と SA が実施した。半期授業の最初と最後には担当教員と SA による振り返りを行い、さらに毎授業後には各クラス教員と SA による振り返りを実施した。また、各クラスにおいて担当教員と学生の個別面談を行い（学生とのコミュニケーション、大学生活での悩みや躓きの把握、履修相談など）、その内容を UNIPA「学生プロフィール」へ登録し、教員間で共有した。
- ・ スポーツ専門演習 I～IV：卒業研究の実施を主軸に、各教員（ゼミ）ごとにゼミ活動を行った。スポーツ専門演習 I・II では今年度より新たに中間発表会を実施し、スポーツ専門演習 III・IV では今年も卒業研究発表会を実施した。中間発表会では、卒業論文のテーマ、背景、方法について複数ゼミが集まる場で発表し、他ゼミの教員や学生からの質疑応答を行った。卒業研究発表会では、学生の発表に対する教員からの質疑応答の時間を設け、学部外・大学外の方にも案内し公開形式で実施した。また、スポーツキャリア演習と同様に、各ゼミで担当教員と学生の個別面談を実施し、その内容を UNIPA「学生プロフィール」へ登録し共有した。

(2) 評価

スポーツキャリア演習では、概ね狙い通りの授業を実施することができた。次年度は主担当教員を変更し、これまでの流れを踏襲しつつ、新たな取り組みも検討する。スポーツ専門演習においても概ね狙い通りの授業

を実施することができた。中間発表会という新たな試みが教員間で高い評価を得たため、より良い実施方法を模索し、次年度も継続する。

2. 教員の教育・研究能力・学部運営能力等の向上

(1) 活動内容と成果

- ・有志教員、将来構想検討委員会、FD 委員会：隔週 30～60 分程度のスポーツ科学部教員勉強会を実施し、「教員相互の研究理解、研究意欲の向上、自己研鑽、大学・CSC との連携、学部の現状や課題の共有」等を目的とした取り組みを行った。本年度は、各教員の教授法や 105 分授業への対応、競争的資金の獲得方法など、教員の能力向上に直結する内容を扱った。また、スポーツキャリア演習や SCCOT など学部の取り組みの振り返りに加え、事務室からの学部運営に関する意見も取り入れ、新たな視点から学部運営能力の向上を図った。本勉強会は有志によるものであるが、毎回半数以上のスポーツ科学部教員参加があり、さらにカレッジスポーツセンターの若手教員が参加することもあった。
- ・将来構想検討委員会：スポーツ科学部教員の行動指針（ISS 教員スタンダード）を作成した。
- ・FD 委員会、自己点検評価委員会：学生の要望等を把握するため、全学生を対象とした学部独自アンケートを実施した。また、年度内における各委員会の活動内容をまとめた報告書を作成し、教員間で共有する予定である。

(2) 評価

教員勉強会の目的である「研究理解の促進、研究意欲の向上、自己研鑽、連携強化、課題共有」について、一定の成果が得られているとの声が教員から寄せられた。また、「ISS 教員スタンダード」の作成により、学部が目指す教員像や方針に関する共通理解が進んだとの意見が教員からあった。一方で、行動指針の遵守状況をどのように評価するかは今後の課題である。

3. 105 分授業への対応

(1) 活動内容と成果

- ・ FD 委員会：共通教育センターFD によるアンケートやワークショップへの参加を促すとともに、教員間の相互授業観察を実施した。FD 委員会において作成した「授業観察シート」に基づいて授業観察を行い、その内容を被観察者へフィードバックすることで、教員相互の学びの機会とした。さらに、フィードバック内容を整理し、スポーツ科学部における望ましい授業の判断材料として学部教員へ提示した。
- ・ 有志教員，FD 委員会：スポーツ科学部教員勉強会において、2025 年度前期の 105 分授業の振り返りを実施した。あわせて、授業の 105 分化や学部が抱える課題について、学生との意見交換会を行い、教員と学生双方の視点から、105 分授業および学部運営に関する課題の把握に努めた。

(2) 評価

相互授業観察により、教員の授業における工夫や改善点等の具体的な取り組みが共有され、「自身の授業改善のヒントになった」「参考になった」「刺激を受けた」などの声が教員から寄せられた。また、教員および学生双方からの意見聴取により、105 分授業の現状や課題に加え、学生の要望や教員との認識の差異など、学部運営を検討する上で有益な情報を得ることができた。

4. 学修成果の可視化

(1) 活動内容と成果

- ・ FD 委員会：共通教育センターFD ワorkshopへの参加を促すとともに、コーチングのコンピテンシーに関する資質・能力を定量的に評価する SCCOT (Sports Coaching Competency Test) とフィードバックを継続実施した（毎年、1・3 年生に実施）。
- ・ スポーツ専門演習運営委員会：3 年次の卒業研究中間発表（研究計画要旨を含む）、4 年次の卒業研究発表（卒業研究抄録集を含む）を実施した。

(2) 評価

SCCOT の実施により、コーチングのコンピテンシーに関する資質・能力を 1 年次および 3 年次で把握するとともに、2 年間の成長度合いを評価することができた。また、学年全体の傾向やグッドコーチ（コーチ歴 3 年以上）との比較により、学生個人の強みや弱みの把握にもつながった。卒業研究中間発表および卒業研究発表では、研究計画要旨や抄録集の作成を通して、学修成果を可視化する取り組みを実施した。中で

も、本年度から新たに実施した卒業研究中間発表は、卒業研究の進捗状況や次年度に向けた計画を可視化できる取り組みとして、教員間から高い評価を得た。